

研究課題名：	進行肝細胞癌に対する外科的治療介入の実態と成績調査
所属（診療科等）：	公立昭和病院（消化器外科）
研究責任者（職名）：	秦正二郎（副部長）
研究代表者（所属）	虎の門病院 消化器外科部長 進藤潤一
試料・情報の提供責任者： 試料・情報の管理責任者：	公立昭和病院 院長 坂本 哲也
研究期間：	2024年4月16日～2026年10月31日
研究目的と意義：	<p>技術的に切除が困難または肝癌診療ガイドラインにおいて腫瘍学的に外科的切除が推奨されていない進行肝細胞癌に対する周術期治療ならびに外科的治療の実態をアンケート調査によって明らかにし、患者の予後データから治療成績を検討する。</p> <p>肝細胞癌に対する切除の推奨条件は肝癌診療ガイドラインで規定されているが、実臨床においてはそれを超える進行度の肝細胞癌に対する切除も一定数行われている。近年の新規薬物治療の登場はそうした進行肝細胞癌に対するいわゆる「コンバージョン手術」の可能性を広げることが期待されているが、進行肝癌に対する外科的治療の実態や成績は詳細が不明であり、従来報告も少数例での検討が大半である。</p> <p>本研究では、肝癌診療ガイドラインで腫瘍学的に外科的切除が推奨されていない、もしくは技術的に切除が困難な進行肝細胞癌症例に対する周術期治療の現状、外科的切除の実態およびその成績を明らかにし、進行肝細胞癌に対する resectability の定義の確立に向けた基礎的データを得るとともに、予後因子の解析を通じて集学的治療の一環としての外科的治療の可能性について検討を行う。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象となる患者さん 2014年1月1日から2018年12月31日までの期間に当院で肝細胞癌に対し肝切除術を受けた方のうち、肉眼的脈管侵襲が見られた方（Vp2以上、Vv2以上、Vb2以上、Va2以上）、他臓器転移が見られた方</li> <li>●利用し、又は提供する試料・情報の項目 術前術後の、血液学的検査所見、生理学的検査所見、腫瘍マーカー、各種画像、手術関連の各種パラメーター、病理組織検査所見、無再発期間、生存期間等</li> <li>●提供する試料・情報の取得方法 電子カルテ上の情報から抽出</li> <li>●試料・情報の利用目的及び利用方法（他機関へ提供する場合は、その方法を含む） 匿名化して個人情報と紐付けられないようにした症例データを虎ノ門病院へ提供する。 門脈腫瘍栓等の脈管侵襲を伴う進行肝細胞癌に対しては、未だコンセンサスが構築されず、患者個別の腫瘍条件によって治療方針が決められているのが現状である。各種抗癌剤、分子標的薬の登場により、進行肝癌に対する集学的治療の選択肢が広がりつつある。本邦の進行肝癌に対する肝切除の位置付けを評価する。</li> </ul>

●利用する者の範囲（当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称及び研究責任者の氏名）  
虎の門病院 消化器外科（肝・胆・膵） 進藤 潤一

問い合わせ先：

【研究担当者】（研究全般に関すること）

例 1. 研究計画や研究方法に関する資料の入手・閲覧に関すること

例 2. 試料・情報の利用又は多機関への提供を停止する旨に関すること

例 3. 研究により得られた結果等に関すること

氏名：秦正二郎（消化器外科）

住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号

電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912

【ご意見・相談窓口】（研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461）0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）